

表-4 茎葉処理剤処理前後 4 日間の気象条件

年次	処理日	ダイズ 葉齢 (葉)	処理前4日間				処理後4日間			
			平均気温 (°C)	最低気温 (°C)	降雨 日数	総雨量 (mm)	平均気温 (°C)	最低気温 (°C)	降雨 日数	総雨量 (mm)
2017	6月30日	3.0	17.2	10.9	3	3.0	21.0	19.7	4	75
	5月24日	2.0	13.8	8.1	0	0	14.8	10.3	0	0
2018	5月31日	2.3	17.1	12.0	1	1	17.6	12.9	1	5
	6月11日	3.4	17.6	12.0	1	39	14.0	11.4	4	21

注) 葉量50mL/10a, 水量100L/10a

り、品種「リュウホウ」に対し2～4葉期処理で5%減収した事例が報告されている。これまで、フルチアセットメチル乳剤の初期葉害程度は、温暖地に比べ寒冷地でより強いことが報告されており(川名ら2018)、東北地域では処理前後の気象条件や処理時期についてさらに検討が必要である。

おわりに

秋田県における標播の播種適期は6月上旬頃で、フルチアセットメチル乳剤の処理早限(ダイズ2葉期)に達する

時期は6月中旬頃となる。この時期は本県の梅雨入りと重なり、連続した降雨や低温に遭遇するリスクが高い。今後、葉害を最小限に抑え、十分な除草効果が得られる処理時期について検討する予定である。

引用文献

岩手県農林水産部 2018. フルチアセットメチル乳剤の除草効果と県大豆奨励品種に対する初期葉害. 岩手県農業研究センター試験研究成果書(平成30年度).
川名義明ら 2019. 大豆用新規茎葉処理除草剤フルチアセットメチル乳剤の雑草種別効果と害初期葉害. http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/

furutiasetto2018.pdf

三浦恒子・加藤雅也 2017. 秋田県内の大豆ほ場における難防除つる性帰化雑草の発生状況(平成25～29年). 実用化できる試験研究成果(平成29年度試験研究成果)13-14.
宮城県農林水産部 2018. 大豆作における茎葉処理剤「フルチアセットメチル乳剤(商品名:アタックショット乳剤)」の奨励品種への影響. 宮城県「普及に移す技術」第94号(平成30年度)88-90.
辻博之ら 2016. 北海道におけるフルチアセットメチルの散布がダイズの収量に及ぼす影響. 第243回日本作物学学会講演会要旨集, 58.
内海誠 2018. [新薬剤紹介]アタックショット乳剤. 植調52(7), 19-24.

田畑の草種

狐野牡丹・金平糖草 (キツネノボタン)

キンポウゲ科キンポウゲ属の多年草。全国の川原や田の畔などの湿り気が多いところに生える。背丈は20cmから70cmほど。根生葉には長い柄があり3出複葉。それぞれの小葉に切れ込みがある。4月～7月ころ、分枝した茎の先に直径1.5cmほどの光沢のある黄色い5弁の花をつける。花後には金平糖のような角のある1cmほどの果実をつける。光沢のある黄色い花と金平糖のような果実はこの仲間の特徴である。

長い間「狐のボタン」だと思っていた。狐が化けるときの黒のタキシードに身を包み、そのスーツの前ボタンがこの金平糖様の果実なのだ、と。まさに「ボタンを掛け違えて」いたのである。名の謂れは葉がボタン(牡丹)に似ていて、「狐」が棲むような野原に咲くことから「野牡丹」と名付けられたという。が、特に狐が棲みそうなところだけに生えるのでもなくどこにでも見られる。ある説によると、花色の黄色から「黄恒(きつね)」だともいうが、「キツネ〇〇」にも様々な花色がある。またある説には、有毒であったり味が強すぎたりして食べられないものに「キツネ」と付けられたとも。

春先、キツネノボタンが芽吹いてくるころ、同じような環境

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

で同じように芽吹いてくるものにセリがある。似て非なるもので、花が咲けば誰でも違いが分かるが若葉の時には注意が必要。セリを摘んでいるつもりがキツネノボタンも摘んでしまったということも。キツネノボタンをはじめとするキンポウゲ科の植物にはラヌクリンという配糖体が含まれ、葉を擦りつぶしたりするとこれが加水分解されプロトアネモニンという有毒成分が作られる。このプロトアネモニンが皮膚や粘膜につくと痛みや炎症、出血性潰瘍などが引き起こされる。

セリと間違えるのも以ての外であるが、花が可愛いからといって子どもに摘んで帰って一輪挿しに、などとはゆめゆめ思わないこと。そういえば「赤毛のアン」では、アンが教会の日曜学校へ向かう途中道端に咲いていた buttercups や野バラを摘んで花輪を編み、かぶっていた麦わら帽子に飾り付けるという場面があるが、ここでいう buttercups はキンポウゲのこと。道端に咲くキンポウゲはおそらくウマノアシガタ。キツネノボタンの仲間では有毒成分を持つ。アンは被れたりしなかったのだろうか。